

背景・取組概要

上堅田小学校では、外国語活動・外国語科の研究校として、「漆塗り」型単元指導計画による授業実践、ICT機器の効果的・効率的な活用、学期末の評価問題「SKaMC」（パフォーマンステストの実践）に取り組んでいる。

工夫・ポイント

- ◆「漆塗り」型単元指導計画とは・・・単元ゴールの言語活動に向けて、その目的が達成できるように、児童は思考力、判断力、表現力を働かせながら、自己調整を行いコミュニケーションの内容を改善していく。
- ◆自分の発話の様子を録画したり、デジタル教科書を活用してヒントを得ながらActivityの様子を前後で比較したりして自分の状態や成長を自覚するなど、ICTを効果的に活用している。

特徴的な活動

- ◆「中間指導」において、その内容でゴールの目的が達成できるかどうか、目指すコミュニケーションの姿を具体化したり共有したりしている。中間指導で子どもが自ら自己評価・自己調整を繰り返している場面を充実させている。

関係者の声

- ◆動画やデジタル教科書の活用により、子どもが自分の状態を確認したり、他者の表現のよさに気付いたりすることができる。
- ◆困りを共有できる学級の雰囲気がある。困りを全員で共有することで、「くわしく」したり、「会話したりしているみたい」に洗練されていく。

動画で自分の状態を確認



シンキングタイムで内容を追加



くわしくなった・会話みたい・・・できるようになった表現を互いに確認



単元のゴールに向けて、振り返りシートで自分の状態を確認



友達の表現のよさを見つけて
自分の表現に生かそうとする



Do you like~?
質問を入れた!



マンダラシートに、課題に
沿った表現を追加



ペアワークで
聞き合う・高め合う



デジタル教科書で
モデルを確認



今日の学びを生かして
自己紹介を録画する



指導の個別化

協働 支持的風土

学習の個性化

シンキングタイム・中間指導・Activityを組み合わせながら

【意図的な指導】

- ◆よりよい表現に気付くことができるような動画の視聴



- ◆デジタル教科書の活用によって適切な表現へと高める



【個に応じた指導】

- ◆子どもの学習状況を見取り、必要な支援を行う



【疑問や課題をみんなで解決】

- ◆困っていること、分からないこと等の共有
→適切な表現をともに考える

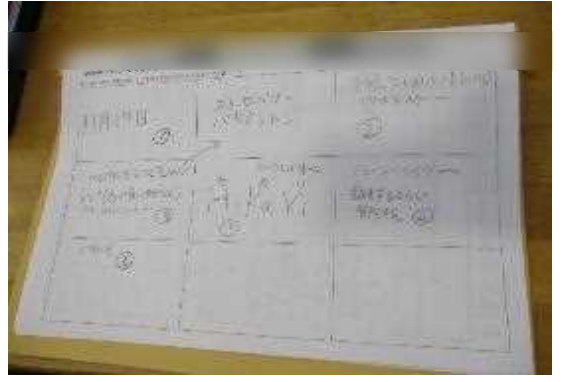
【ペアワーク】

- ◆自分のことをもっとよく知ってもらえる自己紹介になっているか、互いに聞き合う
改めて、よりよい表現に気付く



【一人ひとりがもつ課題】

- ◆自分のことをもっとよく知ってもらうための言語活動
・名前、・好きな人・もの・こと、誕生日 等
→話す内容の具体化（シンキングタイム）
- ◆好きなことを詳しく、会話しているように、話す順番に気を付けて 等



【自分の状態の把握】

- ◆動画で自己紹介を録画
- ◆振り返りで自分の伸びや成長を自覚



👉 単元ゴールの言語活動を4つの視点に沿って設定する

- ★ 必然性
- ★★ ほんもの
- ★ 相手意識
- ★ コミュニケーションの意義や楽しさ

他教科等と関連付けて

👉 授業は毎時間ともに言語活動を中心に据える

- ★ 単元ゴールに向けて毎時間、言語活動 = アクティビティを数多く設定する

👉 単元ゴールに向けて、言語活動の内容を広げたり深めたりしていく

- ★ 中間指導で児童には自身の発表内容ややりとりの姿をメタ認知
 - 児童自身の学習改善
 - 中間指導はそのために行う、教師の働きかけであり、効果的・効率的に行う

ICT活用